

令和6年6月25日

<佐々木 朗>

## 台湾旅行紀

### 0 はじめに

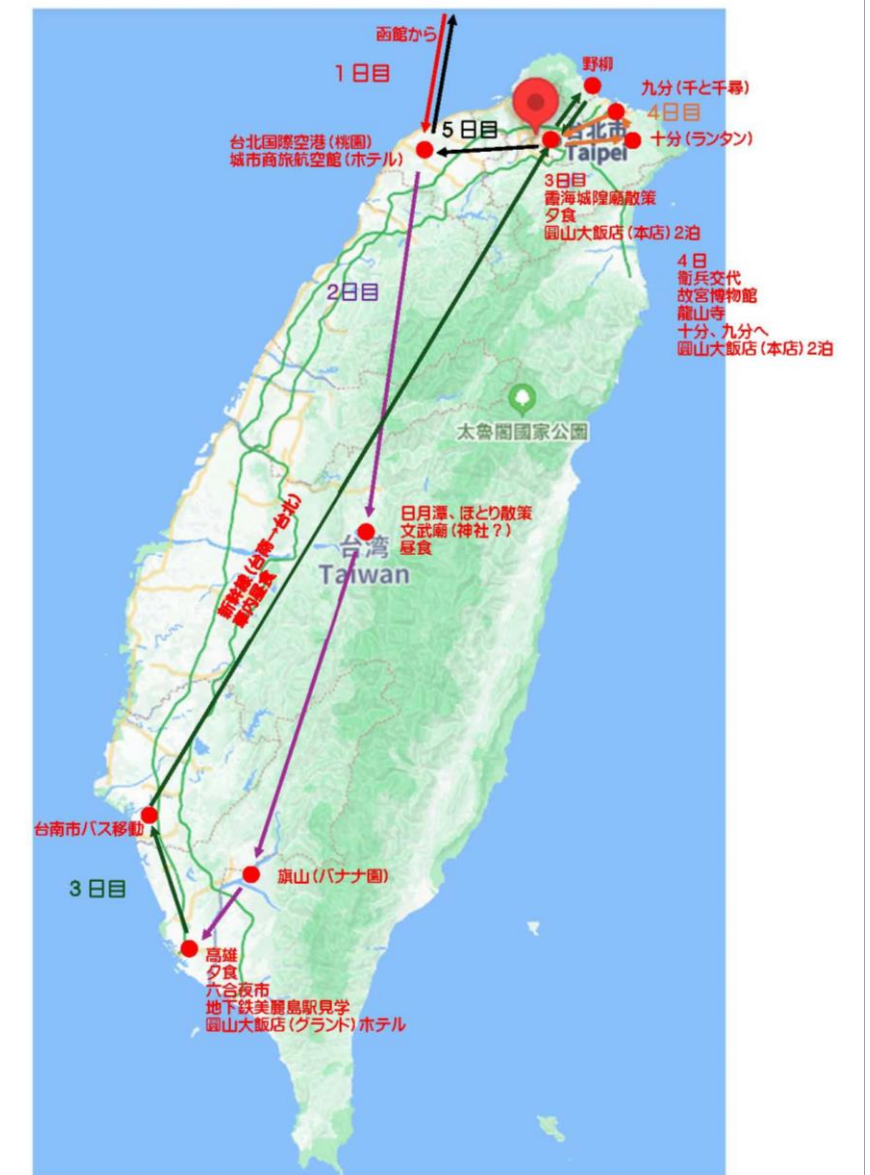
何かをやったら「まとめる」。人間の記憶などはあっという間になくなってしまうので、こうやって、書き物で残しておくことも、もしかしたら、大切なものかもしれないですし、どうでもいいことなのかもしれないかもしれません。

令和6年6月に4泊5日のコースで阪急トラピックスのツアーで台湾に行ってきました。

阪急交通社は、一度使うと、次から次へと旅行の案内が来ます。「そんな次から次へといけるわけがない。」ということですが、中身を見てから、処分していました。函館と台北の直行便が就航するというチラシが入り、「まあ説明だけでも行ってみるか。」ということで、2月に函館アリーナで行われた説明会に行ってきました。30人ぐらいはいたのではないのでしょうか。妻が乗り気で、「あと何席あります。こちらの日付は満員です。キャンセルはあとからでも無料でできます。」などという言葉にも乗せられながら、今回の日程を申し込んだわけです。

私はどっちかという、今でもそうですが、国内の方が気が楽です。言葉は通じるし、無線もできるし、ややこしいことはないし、というのが本音です。

私たちの初めての海外旅行が2008年8月の台湾ですから、パスポートも取りなおしです。写真を撮って久しぶりに渡



島支庁へ行きました。5年物と10年物がありました。5年物にしました。旅行代15万円ぐらいに燃料差額やら2万円位？、パスポート代1万円ちょっと、旅行保険数千円、レンタルルーター5000円位などで、結構いい金額になりました。

何回か、支払いやら、ご意向など手紙が来ましたが、そんなにややこしくありませんでした。スーツケースを大と中を買いました。お土産はスーツケースに預けてしまった方が、ややこしくなくていいので、やっぱり大きめがいいです。

あとは、「なるようになる」と言うわけで、スーツケースを押しながら、空港まで歩きました。

## 1 準備編

台湾旅行をして、当初不安だったこと、行ってから、知っておいた方がいいことなどをまとめます。

### (1)電源

110V60Hzです。日本のコンセントと全く同じです。10ボルト電圧が高いですが、何も気にすることはありません。パソコン、スマホのUSB充電器など、全て全く支障なく使えます。

### (2)お金

お金は台湾ドル (NT\$) です。1NT\$が4.7円ですので、付いている商品札の5倍ぐらいと考えるといいです。ジュースが38NT\$だったら、だいたい190円弱ぐらいということです。消費税などややこしい表示はありません。

トラピックスのツアーでは、ガイドさんが、すぐに両替をしてくれます。ガイ

ドさんは、あらかじめ1万円分、5000円分を袋にいれた台湾ドル (1NT\$ = 5.1円で計算) をたくさん持っていますので、1万円札を出すとその場で交換してくれました。足りなくなったら交換という具合です。ですから、最初からあまり大きい額を交換する必要ないと思います。私たちも1万円を交換してもらいましたが、しばらくもちました。

免税店や空港などは、台湾ドルと、円を混ぜて使うことができます。ただ、おつりは台湾ドルです。

先ほど言いましたように、空港では、どちらのお金でも使えますので、最後のお土産は、全部台湾ドルを使って、あとは日本円で支払いました。ただ、日本円は、札のみですので、最後端数の台湾ドルは、お店の人が「これならどう？」って出してくれた餡を買いました。あとジュース1本も買えないぐらいの小銭が残っています。「どうしようか。」と思っていたところ、ドネーションの箱がありましたので、そこに寄付して終わりました。

### (3)お買い物

ツアーでもお買い物チャンスは結構あります。台湾は、コンビニだらけ、それもセブンイレブンとファミリーマート。他にももう一系列ありますが、地元の人



もコンビニや小さな店で間に合わせているようです。バスに乗っていると、街の中は、あっちにも、こっちにもよく見かける看板があるって感じです。定員さんは、ちょっとかどうまでわかりませんが、英語は通じました。ジュースやスイーツなどを買いました。他にもバスを降りた崎で、フルーツジュースなどを何回かのみました。生ということもあるのでしょうか、だいたい1本300円から400円位でちょっと高めですが、新鮮そのものですので、味わうといいと思います。

フォーマルなお土産は、空港にたくさんあります。ツアーの場合、空港に着いたら、まず、手荷物を預けるので、ちょっとしたお土産以外は、ショッピングに連れて行ってもらうお店やホテルの方がお勧めです。商店街などの自由時間もあり、目移りしそうですが、私たちはやめておきました。前にも書きましたが、前日までにお土産のめどは付けておいた方がいいです。空港は、カバンに入る程度と考えた方がいいです。

#### (4)高額なショッピング。

トラピックスの場合、高級店に2箇所案内されます。一つは、高級な宝石店。北投石という台湾産の石をブレスレットやネックレスにしたものを勧められま



す。まず、説明の場所に集合して、いかに健康に良いか説明し、その場にある機械で、その効能の強さを測って見せます。それが終わると、一組に一人の店員さんがぴったりと付き、ブレスレットを勧められます。私は、全く興味がないわけですが、妻がその気になったらどうしようと思ってハラハラしていましたが、無事かわしてその場を離れることができました。ちらっと値札を見ると20000NT\$。いくらかわかりますよね。10万円ぐらいです。「買う人なんかいるのかなあ。」と思って、バスに乗ったのを見ると、あっちにもこっちにもブレスレットを買っている人がいて、そっちの方がびっくりしました。ホテルに帰って、アマゾン調べると3000円位で売っていました。本物、偽物、同じ物？よくわかりません。もちろん、「買わない方がいい」なんてことも言えませんが、よく考えることは大切です。

もう一軒の高級ショップは免税店です。安いものもありますが、「免税」ということで、お金（台湾ドル、日本円、カード）で支払うと、出発日に商品を空港まで届けてくれるそうです。高級バッグや化粧品、服などもありましたが、多くの方が素通りと言う感じでした。

#### (5)お天気

行くときは、行程中、全て雨マークでした。ところが、実際は、ただの一度も雨に濡れるということはありませんでした。でも、天気予報が外れたということではありません。一日にだいたい一度は雨が降りました。それも、空が暗くなってきたかなと思ったら、いきなりザー

と振り出し、一時間もしないで、雨は上がりました。朝お日様が出ていても、いつ雨が降るかわからないということです。私たちのツアーはたまたま運が良かったわけですが、雨合羽と折り畳み傘は、よほど、雨が降りそうではない見学地以外は、持って行った方が正解です。私たちの前に行ったツアーはびじょ濡れという情報を聞いていました。

#### (6)暑さ

30度は軽く超えますが、私の感覚で、耐えられない暑さではありませんでした。朝夕は気持ちいい気温です。外が寒いと思ったことはただの一度もありませんでした。

ただ、バスの中、ホテルの中、お店の中は、列車の中、いわゆる外でないところは、ギンギンに冷房が入っています。ホテルの部屋は自分で調整できますが、その他のところは、「寒い」と言えるところと言えないところがありますので、薄く羽織る者があった方がいかもしれません。私は、長袖には一度もありませんでした。

#### (7)水

飲めないことは内容ですが、生水を飲まないのが原則です。ホテルには、サービスで水が冷蔵庫に冷やされています。ガイドさんもうるさく言っていました。水分補給は必要です。のどが渴く前に水分補給外大切です。ホテルのサービスの水で足りなければ、ホテルの水道の水を一度沸かしてペットボトルに入れるのでもいいですし、昼食会場や休憩スポットなどで、いくらでも水やお茶、ジュースを購入する機会はあります。

#### (8)食べ物

「台湾の食べ物はおいしい。」と言われますが、その通りだと思います。「台湾料理ってなんですか。」と聞かれるとうまく説明できませんが、いわゆる中華、小籠包（ギョーザ、シューマイみたいなもの）、シューマイ、肉まん、豚の角煮、メンマ、普通の卵などがあります。8割強が肉で、魚はたまに見かける程度です。肉が得意でない方は、ツアーで参加するとがっかり来ることになりそうです。

朝食は全てバイキング。半端な量ではありません。全部、食べきれないはずがないくらいの種類です。箸は、プラスチック製で、日本の長さの1.3~1.5倍で最初ちょっと驚きましたが、普通に使えます。



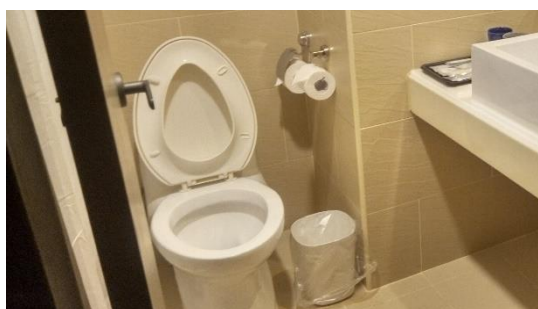
#### (9)トイレ

空港と3、4日目に泊まった大きなホテルには、シャワートイレが付いていました。町中のトイレには、まず、付いていません。1日目、2日目のホテルにもついていませんでした。町中やお店のトイレは、トイレトペーパーが付いていないところも、かなり多いです。さらに、トイレトペーパーを水に流してはいけないところがほとんどです。便座の隣に紙を捨てるゴミ箱があります。台湾は下水の整備が遅れているようで、詰ま



ってしまうこともあるそうです。私は、紙で何回も拭いて、おしりがひりひりになりました。ウォシュレットなしで生きていけない人は、容器を絞ればノズルから水が出るようなものを持って行った方がいいと思います。お尻ひりひりの私からの強いアドバイスです。

きたない話ですみませんが、下痢をして、やっとの思いで、コンビニを見つけて、トイレに入ろうとすると、先客。限界近くまで行って、やっとなんて中に入って、次の瞬間に用を足して、ぎりぎりセーフ。安堵した次の瞬間。ホルダには、トイレトーパーはなし。もちろん、私はティッシュなど持ち歩く習慣はありま



せん。くそパンツのまま外に出て、妻からティッシュをもらうしかないと思っていたところ、なんと、トイレの横に、便座を洗うホースが。ホースが神様に見えました。ホテルについて、トレペをポシュレットにたたんで入れたのは言うまでもありません。

#### (10)交通

台湾は車社会。それもバイク社会です。大きな交差点では、車の前にバイクの停止線があって、先頭集団のバイクが20台以上にもなります。車対バイクの比が半々まではいきませんが、相当にバイクの割合が多いです。店の前は、道路の

駐輪場もバイクだらけです。それだけ車を停めるところがないということも言えます。

バイクは、細いところでも、歩行者の周りでもビュンビュン来ます。「こんなじゃ交通事故が多いんじゃないの。」という私の予想は見事あたり、人口当たりの交通事故死者数は日本の8倍ぐらにもなるそうです。ガイドさんが、言っていました。「高雄（台湾の左下の方の大きな市）では、信号は参考程度に見ること。」その言葉の通りです。



大きな都市では地下鉄がありますが、日本の東京のように、歩けばすぐに私鉄や、JR、地下鉄という環境ではありません。バスが中心となります。交通網が発展していないからこういうバイク社会にも結び付くのだと思います。

私は路線バスには一度も乗りませんが、以前にも台湾を旅行された方の情報によると、そんなにわかりにくくはないようです。述べたようにバイクが車のそばを通り抜けて前に進む社会、交通事故がいつ起こってもおかしくないような環境、そして、右側通行。レンタカーなどはお勧めできません。

#### (11)航空会社

私たちの乗ったスターラックスは、格安ではない方。もう一つ千歳便は格安航空。機内サービスがだいぶ違うようで

す。函館便は、午後6時出発で、すぐに食事や飲み物が出ました。帰りも正午発で食事飲み物付きです。一方の札幌組はいっさいなし。飲み物も出なかったそうです。帰りの便では（行きもそうだったと思います）荷物の重さが制限されていて、重ければ、さらに料金がかかるようです。



一日目午後9時過ぎに、私たち函館便が台北空港について、30分位のちに、札幌便が付いたわけですが、付いてすぐ、空港のコンビニにで、札幌組はおにぎりの購入。ガイドさんに「両替してください。」から始まったツアーでした。

ツアーだと、航空会社は選べませんが、格安航空の場合、下調べが必要です。

(12)持っていけるもの行けないもの。

私の必需品、パソコンは普通に持っていけました。特に帰り台湾を出る時に、気を付けなければならないのが、水物。ペットボトルはそのまま持っていけません。「水捨て場」があり、そこで、持っている水は捨てます。空のペットボトルを捨てないで、出国審査を通れば、搭乗口にある水汲み場で水を汲むという方法があります。あと、フルーツや肉、植物系などは持っていくことができません。ガイドさんはせいぜい「いなり寿司」と言っていました。サンドイッチにハムが

挟まっていたらアウト、おにぎりも中身によってはアウト。お酒などは、一定の量までは大丈夫ですが、それも、スーツケースの中へ。電池類はスーツケースの中はダメです。モバイルバッテリー、パソコンのバッテリー、そういうものは、カバンに入れて、機内持ち込みです。これは国内ルールも同じですね。

(13)インターネット環境

携帯電話をローミングだかするとそのまま使えるそうですが、インターネットも電話（電話は着信のみならず、かかってきたのもお金がかかる）ということで、お勧めのモバイルルーターをレンタルしました。保険料も入れて4500円でしたが、落とすことも考えにくいので、保険なしでも大丈夫だったかもしれません。

旅行中全て機内モードにして、私と妻の2台のケータイをWIFIでつないでいました。ネット環境が悪かったということは一度も感じませんでした。電話は、かけること、受けることできませんが、ネットは、見放題、ラインも自由に使えます。ただ、私の場合、プロバイダーの関係で、メールは受信することができましたが、送信することはできませんでした。メールへのお返事は、ホテルについて、WEB経由で送信することができました。

NHKプラスも海外は制限されていました。そういうところも一部あるということです。

全てのホテルで、無料WIFIを使うことができました。私たちレンタルのルー

ターがありましたので、「ああ、つながるなあ」程度に使いました。

#### (14)パスポート

命の次に大切なのはパスポートと言われますが、その話をします。述べたようにパスポートがないと、もちろん出発できませんし、台湾から日本に帰ることもできません。万が一パスポートをなくすると再発行まで、およそ一週間、台湾に滞在しなければなりません。その間の宿泊費、そして、帰りの飛行機代などは、全て自分持ちとなり、ツアーに払った代金の何倍にもなるということです。

台湾は、比較的治安はいいそうです。でもすれ違う時、人に触りそうなくらい細かい観光地、特に九分などは、それ目当てに、やってくるツワモノもいるようで、十二分に気を付けなければなりません。事実、九分では、観光地からちょっと離れたところに中身が入っていないと思わる（ちらっと見ましたが、触れることはしませんでした）白い女性用のカバンが、ベンチの上に置き去りになっていました。真っ青になってカバンを探している女性の姿を想像してしまいます。

ガイドさんは、バスの中に置いていくよう、何回も勧めました。バスの中でなくなれば、自分達か運転手さんかしりません。バスでそんなことがあったら、バス会社もたいへんなことになります。ですから、外へ持って行って、手元から離さないというのも考えですが、バスの中に置いておくという方が、かえって安全ということです。私たちは、バスの中に置いていき、バスへ戻るごとにガイドさんの「パスポート確認」の言葉で、確

かめました。もちろん顔を青くした人はいませんでした。

実際にパスポートを使ったのは、入国と出国の時、あと免税店で高いものを買った人、空港でお土産を買うときの確認などに使いました。

#### (15)出国・入国

函館空港は、いつものロビーのずっとさらに奥に国際線があります。最初にいつものロビーでトラピックスの人から切符をもらいに来ます。この方は一緒にはついていきません。最初にスターラックスと書いてある所へ行ってパスポートと切符を見せて受付をしてから、荷物預けのところに行って、預ける荷物と、機内に持っていく荷物をチェックしてもらいます。そのあと、係りの人のところを通ります。その時にパスポートと切符を見せます。そこを通過すると待合室です。飛行機に乗る時パスポートと切符（半券を切ります）を見せて飛行機に乗ります。

飛行機から降りる時は、やっぱり一度入国手続きのところを通ります。帽子、マスクを外して、両方の人差し指を機械に付けます。これで大丈夫です。

台湾から帰る時は、最初に荷物を預けます。札幌行きと函館行きは飛行機会社が違うので、函館がガイドさん、札幌が添乗員さんが付きっきりで見てくれます。台に載せて、切符とパスポートを見せます。そのまま奥の通路に行くと、テレビに自分の荷物が調べる機械から出てくのが見えます。ここで何も言われなければ次へ行ってかまいません。何かあるとここで開いて見せるようですが、そ

んな人はいませんでした。それから一度札幌組と合流して、出国手続きに入ります。全て機械です。パスポートを機械に置くと自動的に扉が開きます。さらにカメラをじっと見ると、扉が開いてOKです。その後、水捨て場を通過して、手荷物検査を通ります。

函館空港では、台湾の人がたくさんいましたが、日本人は優先して通してくれます。顔を見て、パスポートに「帰国」のハンコを押して、OKです。預けたものは、申告書に「何もなし。」と書けば大丈夫でした。

## 2 観光地めぐり

### 2日目

#### (1) 日月潭 (にちげつたん)

台湾のほぼ中央部に近いところにある湖です。上から見ると月と太陽のように見えるということでこの名前が付けました。湖は青と言うよりきれいな緑色です。

函館ローカルの方は、大沼公園の雰囲気ちょっとあります。遊歩道があって、あひるのボートがあって、さらに遊覧船があってという感じです。高いところ



ろにあるので、暑さも柔らかめです。

その高台のほりにあるのが文武廟 (ぶんぶびょう) です。廟とは、日本で

いう神社に当たるのでしょうか、そんな感じです。ダムを造るときに沈んでしまう二つの廟を合わせて一つにしたもので、古いものではありません。しっかりとした石造りです。階段、を上ってまた階段。一番上に行くには、また階段です。一番上に車が停まっていたが、純中国風の建物です。



私たちのツアーは、散策道をちょっと散策、その後文武廟の見学、そして、湖畔のお店で湖を見ながら昼食。そんな流れでした。丸テーブルが2つで、ここで、だいぶ参加者同士、お話ができるようになりました。

#### (2) 旗山 (きざん)

パンフレットには、「バナナ食べ放題」と書いてあります。「せいぜい、がんばっても3本か。」などと話をしながら、バナナ園に着きました。

着いたのが、普通のバナナ農家。初めてなので普通化特別かわかりませんが、観光地の様相は一切なし。着くとバナナ園のおじさんが、ミニトラックの前で、にこにこして待っています。バスを降りると、みんなにバナナを一本ずつ渡します。今、店で売っているのはほとんどフィリピンバナナだそうで、台湾バナナは高級品だそうです。

もらったバナナの皮をむき、その場で食べながら、バナナ畑に向かいました。





ようなわからないような。です。「大吉」  
「凶」などの言葉はありません。



台湾でのお祈りは、ひざまづいて、自分の名前、住所、生年月日と願い事を心の中で思うというやり方です。日本では、立って、願い事だけですよね。神様に住所と名前を教えないとどこへいったらいいか迷うからだそうです。日本まで来てくれるといいのですが。神様なので距離は関係ないのでしょうか。

次に食事。大きなショッピングモールの中のレストランです。一般の方も出入りしていて、予約をしているとは言え、20分ぐらい待ちです。周りはデパートの地下一階と言う感じ。日本の名前の店もあちらこちらに。富士山の水が健康にいいということで、玄関の一番いいスペースで売っていました。ちなみに台湾には小さな島ながら富士山より高い山がいくつもあるそうです。雪も降るそうですが、スキー場はないようです。



料理は、中皿に次から次へと出てきて、そのへんの4, 5人で取り分けるスタイル。小籠包やシューマイ、野菜炒め的なものが多かったです。早く分けないと次から次とくるので、必死に食べました。もちろんおしゃべりもしながら。スープもデザートの小籠包も食べておなかも満足。

おなか一杯になったところで、六合夜市へ。私がセブンイレブンのトイレにお



世話になったところです。パイヤミルクも、そのへんの屋台からゲット。添乗員さんがどんどんできてくるミルクを皆さんに渡して、しばしの自由散策。食べ物屋さん、肉、海鮮、乾物、スマートゲーム、クレーンゲーム、いろいろありました。道路なので、昼間は車が通るようになっていていると思います。私たちはピストル撃ちをして、風船を割り、孫のおもちゃを2つゲットしました。銃にレーザー光線がついていて、まず、間違ひなく当たります。

その後、高雄の地下鉄線の駅を見学しました。美麗島駅。中はとってもきれいな





でした。地下空間と言う感じ。でも実情は台湾の地下鉄はあまり便利なところを走ってなくて、さほど混雑しないという話でした。地下鉄には乗りませんでしたし、どんな地下鉄かもみませんでした。

3日目

#### (4) ショッピング

朝からガイドさん、力を入れて、車内でも石の話。私としてはちょっと怪しい感じ。あくまでも個人の感想になりますが、このショッピング店に連れていかれるのは怪しい。詳しくは先ほど書いた通りです。私たちはガイドさんお勧めのメンマを買いました。これがとっても美味しい。台湾土産としては、珍しいし、おいしいし、お勧めです。けっこうな数を買いましたので、後からスーツケースただいぶ、重たくなりました。液体になるので、飛行機はスーツケース内はセーフと言うことになります。もちろん肉やバ以上の方がブレスレットを手首につけて、次は新幹線です。

#### (5) 新幹線

新幹線は台中から乗りました。日本の技術もだいぶ取り入れられているようです。チケットはQRコードです。ホーム



ドアはありませんでした。車が右なのに列車は左側通行。もしかしたら、日本が関わっているからかなあとも思いました。時間にゆるやかな台湾でも、新幹線は時間ぴったりに来ました。

2時間ぐらいの列車旅です。お昼は弁当。これが、大きな肉がどかんどご飯の上に乗っている弁当。「おいしそうなお弁当。」と言ったら、「お世辞でしょ。」と言われるような見た感じ。味はまあまあですが、一口、ふた口手を付けて、残した方も結構いました。もちろん、私たちは、「もったいない」精神で全ていた



だきました。

乗り心地、室内もほぼ新幹線。台湾を感じさせませんでした。対中からずっとしばらくはトンネルがありません。西側（台湾の左側）の平地をずっと走っていく感じでした。

#### (6) 野柳 (いえりょう)

台北からは、別な会社のバスに乗り込み、今までは横3人（2人と1人）から、2人ずつのバスに乗り込み、野柳へ。台湾の101ビルを横に見ながら、進みました。「買える人がいるの？」とい



うような超高級マンションがたくさん建てられる一方、バスの左右には、「地震が来たら大丈夫？」というようなマンションまで様々です。そんなマンションでも台北で借りる、買うとしたら結構家賃は高いのではないかと思います。

郊外にでると、久しぶりに海が見えました。何か心が安心する感じです。野柳は、柔らかい石が、塩水などで浸食されて、できた奇妙な石があちらこちらにあります。「何に見える？」っていうので、



パンフレットを見ながら、回りました。人気の女王様の頭のところは、順番待ちになっていたの、パス。ぐるっと奥の方まで、回って戻りました。潮風が気持ちよかったです。ヤシの実ジュースを買って飲みました。「おいしい、かな？」でしたが、初めての味は印象的でした。

#### (7)台北の下町

霞海城隍廟 迪化街。台北の下町っていう感じ。庶民の買い物場というところですが、霞海城隍廟は恋愛成就の神社ですが、あまり関係のありそうな方はいませんでした。お経は歌を歌っていました。

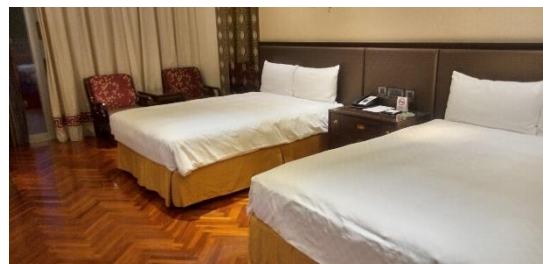


なんかとっても明るい感じです。飲み物や、乾物屋、つくだ煮屋、小さな商店がいっぱい店を出していました。シャッター街という印象はありません。とても人通りも多く賑やかでした。近くのレストランで台湾料理をいただきました。



#### (8)丸山大飯店（本館）

ここは2泊するホテルです。ガイドさんが、「明日の朝はスーツケースは置いてくるんですよ。」と何回も言っていました。みなさん、約束を守れました。昔は要人が泊まるホテルで、一般人はお金



を出しても泊まれない高級ホテルだったそうです。今も玄関は一面赤じゅうたんですし高級感はたっぷりです。風呂も大理石、ベランダ付き。素敵なところです。

台湾のわけのわからない放送も、だんだん体に染みついてきて、文字と映像







で、なんとなく内容がわかるようになりました。国内ニュースは全部が全国版という感じです。捕まった、火災、交通事故、土砂崩れ、キャスターが早口で次から次へとニュースを紹介していきます。美容、バラエティー、スポーツ、たまに日本語の昔のテレビ番組に中国語の字幕、などありました。中でも特徴的だったのが、政治に関するトーク番組とかワイドショーが多かったです。そして中国、フィリピンを意識したちょっときな臭いニュースもしばしば見かけました。

朝食は述べて陽に豪華そのものです。食べ過ぎないようにすることが肝心です。

4日目

#### (9) 忠烈祠 (ちゅうれつし) での衛兵交代式見学

夜勤の兵士と日勤の兵士 (勤務状態はわかりません) が交代する式です。数名のイケメンの兵士数人が境内(?)を歩いて、国に忠誠を誓い(?)その後、それまでの兵士と交代します。歩き方が、まさに一糸乱れずという感じで、足の歩みはもちろん、手の振り方、銃の持ち方など全



て、ぴったりとそろっていて、圧巻されます。結構近くでみることができました。広い公園広場みたいところで行われ、入場料などは全くかかりません。国歌斉唱の時は、荷物を持ったり、帽子をかぶっていたりするのになしという約束です。20分ぐらいかかりますが、最初はもっと短かったようですが、お客さんサービス見たいので、少し時間が長くなったようです。

#### (10) 国立故宮博物院 (こくりつこきゅう



はくぶついん)

地下1階から入って、3階まであったと思う。焼き物あり、もっと古い時代のものあり、書あり、芸術品あり、仏教的なものありで、あんまり難しいことはわからなくても、すてきなものはたくさんありました。私は一本の象牙で作った、お城みたいなのに感動しました。



1時間半の見学でしたが、前半はガイドさんの説明、後半は自由見学でした。やっぱり説明をきくと、違う見方も出てくるので、この時間配分は良かったと思います。

また、画期的な説明システムがありました。ガイドさんが大きな声で話さなくてもいいように、ガイドさんはマイクと送信機、お客さんは、ヘッドホンと首からかける受信機を貸してくれました。混雑していても話がよく聞こえました。そうとうたくさんチャンネルがあるようで、あっちの集団、こっちの集団、みんなつけていました。階段をちょっと曲がるとガサガサいうので、極省電力の送



信かと思います。

全部ゆっくり見るなら、何日もかけて、っていうぐらい、展示物はたくさんあります。私たちみたいな海外の旅行者もいましたし、小学校の社会見学みたいのもあり、かなり混雑していました。

#### (11)免税店

海外の方専用なのでしょう。ブランドものがたくさんありました。店に入るとまず、券が渡されます。千歳と函館は違う券です。ガイドさんの説明によると、ここで買ったものは、渡された券を見せて、お金を払って引換券をもらって、次の日に空港で引換券と品物の交換という



ことです。ですから、免税ということになるということでした。最初にエスカレーターに乗りました。ずいぶん長いなあと思っていたら、一直線に4階まで上がりました。そこから、降りてくる感じですよ。バッグ、アクセサリ、化粧品、靴などがあり、私はできるだけ妻が立ち止まらないように、下へ下へと導きました。1階がお土産屋さんで、ちょっと買い物をしました。免税店ですが、ここでお金を払って、品物をもらいました。ここでは、日本円でも台湾ドルでも、カードでも使えます。カードは引き落とされる時のレートですので、レートが動けば得をすることも損をすることもあるそうです。

この時は、かなりの雨でした。しかし、バスが軒下まで来てくれて、雨にはあたりませんでした。何度も書きますが、このツアー最中、全く雨を浴びることはありませんでした。

#### (12)お昼はしゃぶしゃぶ



街中のお店に入りました。4人席なので、もうひと夫婦と一緒にしました。だいぶ慣れてきたので、おしゃべりしながら、食べました。いわゆるしゃぶしゃぶ(ラム肉)で、おいしくいただきました。

#### (13) 十份 (シーフェン)

ほとんど「じゅっぶん」と呼んでいました。ランタンに願い事を書いて、線路



の上から飛ばすと願い事がかなうというイベント。下調べもしていなかったのに、どんなランタンなのかもわかりませんでした。イメージとしては30cm角ぐらいかなあと考えていました。それに線路で飛ばすのがいいということですが、列車が来たら大丈夫なのか、事故多発地帯でないのかなどと疑問が山ほどあり、現地に近づきました。



十分に近づくと、ランタンが空中に浮いています。それも2個3個でなくもっともった数が。なんか急にやる気が出てきました。バスの中でガイドさんから説明がありました。二家族で一組になって、ランタンに願い事を書きます。筆に墨を付けて書きますが、墨をつけすぎて、ランタンを破ってしまわないようにということでした。

わかったようなわからないような気持ちで、バスを降り、商店街みたいなところを抜けていきました。周りが開けると、そこは線路。その線路上で、楽しそうにランタンを飛ばしています。線路が商店街に溶け込んでいるという感じ。私たち

はそのちょっと奥のお店で、ランタンに挑戦しました。

同じく函館から来たご夫婦と一緒にしました。真っ赤なランタン、薄い油紙のようなものでできていました。広げると一メートル弱四方ぐらいの大きさ。4面あるうちの2面に両側から願い事を書きました。それが終わると、たたんであるあと2面をだして、そこに願い事を書きました。私たちは間違えて、最初の1面にそれぞれの願い事を書いてしまいました。もう一面あたると知って、別なことを書きました。私は、「また、たくさん、旅行をしたい。」と書きました。ランタンの空気の入る穴のあたりに針金みたいなものが付いていて、そこに油をしみこませたような紙が束ねられています。

4つの角を四人で持って、まず、4つの面を写真撮影。スマホは、係りの方がそれぞれの家族のカメラで写してくれます。写し終わったら、ランタンをひっくり返して、火をつけます。またさっとひっくり返すと暖かい空気がランタンの中に入って、上へ引っ張られる感じです。熱い風をちょっと感じながら、下の方を持ち、「3, 2, 1, 手を放して」でその瞬間ランタンは大空に舞っていきました。あっという間に小さくなっていきま



した。係りの人がビデオも撮ってくれました。

私たちのツアー5組が無事飛ばし終わって、ほんのちょっとの自由時間。例の線路に行くと、「汽車が来た（中国語は、わかりませんが、たぶん合ってると思う。）の声でみんなが、線路からです。すると、向こうからゆっくりゆっくりディーゼルの汽車が来ます。本当にゆっくりした速度です。みんなで手を振りました。汽車の中の方も手を振ってくれました。汽車が通り過ぎた後、何もなかったようにすぐ線路は人だかりになりました。

私は、頭の中は、次の疑問でいっぱいでした。「あのランタンどうなるのさ？」バスから見ても、木や電線に引っかかっているのもありました。気になってしかたがないので、ホテルに戻って、調べました。なるほど、拾うのを仕事にしている方がいるんですね。持っていくと、一ついくらかお金になるそうです。こんないつ火事になるかわからないようなことをしても大丈夫なの？ 飛ばす時間と、飛ばしていいエリアは決まっているそうです。線路にしても、火をつけたものを飛ばすにしても、日本で考えられない楽しみです。海外旅行っていう感じでした。とっても心に残りました。

#### (14) 九份（きゅうふん）

その昔は、金山だったそうで、その昔はだいぶ賑わっていたそうです。日本が統治していたころが最盛期だったようです。ところが、金が取れなくなって、閉山してすっかり寂しくなりました。ところが映画のロケ地がきっかけで、再び栄

え、さらに、千と千尋の神隠しのモデルになったということもあり、一気に観光地になりました。

観光地は、お店。京都の清水寺へ続く道はご存じでしょうか。あの道路幅の3分の1ぐらいで、全て階段です。中央の一直線で登る階段の途中に水平に左右に何本か道が走っています。ガイドさんにはくれぐれもわからなくならないように真ん中の道のそばを離れないようにした方がいいですと、きつく言われました。

さらに、なるほどと思ったのが、迷子対策。ガイドさんは、みんなに、旅程のパンフレットを出すように言





いました。「私の名前と電話番号を書いてください。」と番号を大きく書きました。「もし、もし迷ったら、この番号にかけてください。でもかけるのは皆さんではありません。皆さんがかけたって、自分がどこにいるんだかわからなくて、迷っているのですから、助けに行けません。迷ったら、どこの店でもいいから、



店の人に、このパンフレットを見せて、電話番号を指さすんですよ。それで絶対通じますから。」なるほど、それは賢いと思いました。かなり脅されたので、幸いにも電話が使われることはありませんでした。

食事は、階段を上がって中腹の元日本料理のお店で、台湾料理をいただきました。食べ終わってから、最上段を目指す人、千と千尋の店を目指す人、その辺をぶらぶらする人、食事場所から夕暮れを楽しむ人、それぞれでした。私たちは、ガイドさんと一緒に千と千尋のお店まで行き、さらにてっぺんまで行きました。てっぺんには小学校がありました。もちろんクローズされている時間です。だんだん暗くなって、九份と書かれた提灯に



灯が入り、雰囲気盛り上がってきます。人もかなりの混雑です。すれ違ったりかならず触れるぐらいの混雑ぶりです。

街の雰囲気、そして遠くの海。全てがきれいでした。ちょっと涼しい風が吹いていました。

### 3 まとめ

そそっかしいのですが、大きなポカもすることなく無事に戻れたことが何よりです。私たちとほぼ同年代の女性のガイドさんからは、「何とかなる。」といつも思っているということでした。うまくいかないことがあっても何とかなる。そう考えればちょっと気楽になる感じです。彼女はツアーを月に2つ受け持っているそうです。ガイドさんは、日本でも暮らしたことがあるし、私たちより日本をたくさん回っています。何か国語も話せる頭のいい人です。出発前のトイレなど、途中からだいぶ厳しくなりましたが、「おこなれないようにしなきゃ。」と思いながら、とってもガイドさん信頼していました。空港の最後の最後まで、大きく手を振ってお別れしました。

迷子用の電話。「台湾に来たらかけてもいいですよ。私、覚えのいい方だから、いつのだれだれと言ったらだいたい名前と顔は覚えているから。お会いしましょう。」などとも言ってくれました。

「皆さんが飛行機で飛び立つ時間には、私は家について、もうグーグー寝ると思っています。」の言葉にはみんな大爆笑。それだけ気を遣うしごとでもあるなあと感謝しました。

観光地のガイドをしている時間より、台湾のことや自分の家族のこと、日本のこと、教育のこと、いろんなことを話してくれました。「こんなガイドさんいる？」というぐらいすてきな方でした。

全く面識のないメンバーとも最後は、にこにこ手を振って別れを惜しみました。パックスアターのいいところをいっぱいもらった旅でした。

でも海外はとても緊張します。ガイドさんも言っていました。「郷にいては郷に従え。」トイレも、水も、支払いも全

て日本での生活と違います。うまく合わせていくことも大切なことを感じました。

「次はどこへ行きます？ヨーロッパですか？ハワイですか？」と聞かれたら、「また、京都かなあ。」と答えてしまいそうな私です。でも海外は、学ぶことがいっぱいあります。価格もまあまあだし、韓国や台湾の旅行から始めるのがいいのかなあと思います。

2024/06/25

